

目次	第10回観察会（長野県伊那市・富士見町）の報告／木下 靖浩・安斉 唯夫・小山内 行雄……………	409
	第10回地衣類観察会に参加して／東條 文治……………	410
	第10回観察会（長野県伊那市・富士見町）で観察された地衣類リスト／原田 浩・坂田 歩美・小杉 真貴子・安斉 唯夫・木下 靖浩……………	411

第10回観察会（長野県伊那市・富士見町）の報告

Report of the 10th JSL Field Meeting at Ina-shi and Fujimi-cho, Nagano-ken, central Japan/ by Kinoshita Y., Anzai T. & Osanai Y.

木下 靖浩・安斉 唯夫・小山内 行雄：地域活性化委員会関東・中部

長野県伊那市と富士見町において地衣学会主催第10回観察会が開催されましたので、報告いたします。

開催日：2011年9月10日（土）～11日（日）

開催場所：長野県伊那市・富士見町

講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）

参加者：24名（講師含む）

* * *

地衣学会主催の第10回観察会を、長野県伊那市（旧長谷村）と富士見町において、大勢の参加者を得て開催することができました。入笠山では第4回観察会を開催しており、6年ぶりの観察会となります。

初日の最初の観察場所の富士見公園（標高965m）は、富士見小学校近くの小さな丘が公園になっている場所でブランコやすべり台があり子供たちの遊び場ですが、立木の樹皮に着生した多種類の地衣を観察することのできる場所でもあります。トゲハクテンゴケやヒメキウメノキゴケなどの葉状地衣のほか、マユゴケやピンゴケ属など、気づきにくい地衣種も観察することができました。昼食後は入笠山を車で登り、標高

1800mほどの場所にあるカラマツ林に観察場所を移しました。6年前の観察会の時に雨に降られてしまった観察場所ですが、今回は好天に恵まれ、腰ほどの高さのササに困らされることもなく、観察を楽しみました。原田講師の説明でハリガネキノリ属を見分け、ニュウガサウメノキゴケ、ハナゴケ、ヨコワサルオガセも観察しました。宿も6年前と同じく山彦荘で、貸切にいただき、バーベキューでおなががいっぱいに



図1. カラマツ林での観察の様子

なった後も、深夜まで地衣談義に花が咲きました。

翌日も好天で、大阿原湿原（標高 1820m）で地衣観察を行いました。大阿原湿原を巡って木道の歩道が整備され、とても歩きやすくなっていました。観察会の一行は、湿原の西端部からティ沢をさらに少し降り、岩壁の露出しているところで、コナゴケ、イワタケ、ニセキンブチゴケ、コウヤクゴケなどを観察しました。岩壁からの落石にヒヤッとする場面もありましたが、けがには至らず、事なきを得ました。岩壁のある箇所

で観察会を開催する場合には注意喚起を十分に行う必要があると認識させられました。健脚に自信のある3分の2ほどのメンバーがさらにティ沢を降りて、カブトゴケ属やツメゴケ属を観察し、無事に観察会を終えることができました。

最後になりましたが、本観察会にあたり、入林・採取を許可いただきました中部森林管理局南信森林管理署、長野県上伊那地方事務所に感謝いたします。

第10回地衣類観察会に参加して

Travel note of the 10th JSL Field Meeting at Fujimi Town and Mt. Nyugasa, Pref. Nagano, Honshu, Japan (10-11 Sept. 2011) / by Tojo B.

東條文治：名古屋芸術大学・人間発達学部

2011年9月10～11日にかけて入笠山で地衣類観察会に参加しました。地衣類観察会への参加はこれが初めての経験で、普段は岩石上生の菌状地衣類を主に観察してきた初心者には樹上生の葉状や樹状の地衣類を中心とした観察は新鮮でした。入笠山は長野県と山梨県の県境付近に位置し標高 1955m、手ごろなハイキングコースとしても人気の場所で、地衣類観察会もこれまでに何度も開催されてきたようです。

晴天の中、最初に観察が始まった富士見公園では、タナカウメノキゴケ、マユゴケ、ノルマンゴケなど、初めて聞く地衣類の名前が飛び交い、それぞれの種の特徴をメモしていくのが精いっぱいでした。

昼からは入笠山でカラマツの林に入り観察となりました。現地に着くとまず、ハリガネキノリ属の観察から始まりました。原田さんから、配布された検索表に基づいて説明がありましたが、いざ目の前にあるカラマツの幹にあるものがどれかを見極めるのはかなり難しい作業でした。あちこち観察したあと、配られたプリントにある美しい生態写真を頼りに、ニューガサウメノキゴケやリボンゴケ、ヒメリボンゴケ、チャザクロゴケなどを観察していきました。

やがて、遠くから歓声があがり、近づいていくと、ピンゴケが見つかったということでした。これまで岐

阜県周辺での調査ではピンゴケをさんざん探してきたのですがみつからなかったのが驚いたのですが、生えている場所がわかるとあちこちにあることがわかりました。こうした観察会で、観察する視点を教わるのが重要であることを実感しました。さらに、原田先生が、カムリゴケの仲間を発見しました。日本新産の可能性が高いということで、調べればまだまだ新しい地衣類が見つかるものだと関心しました。

その日は宿に着くと、顕微鏡やプロジェクタを使った研修会があり、実際に観察のポイントなどを解説して頂けました。夜は懇親会で、地衣類の話題で盛り上がりました。

2日目は、ティ沢に観察にでかけました。移動途中ナガサルオガセが長く垂れ下がったスポットがあり、どの車も自然に止まって参加者皆がカメラを向けてしばし撮影。参加者の方々の地衣類への思いを感じた瞬間でした。

ティ沢ではイヌツメゴケ、ケウラムゴケ、ウラムゴケモドキなどを観察しながら移動して岩場にたどり着きました。この岩場は、案内の安齊さんが事前に調べた、とっておきの観察ポイントだそうで、キンブチゴケやイワタケ、ヒメイワタケ、コウヤクゴケやチズゴケのなかまなどが観察できました。キンブチゴケがたわわ

に突る様子は迫力がありません。また、ここで見られたコナゴケは実はポピュラーな地衣類だそうで、これまで見落としていた気がします。今回の地衣類観察会でインターネット掲載の図鑑には10種類以上の掲載種が増えました。

ティ沢での観察が終わり駐車場に着くとばらばらと小雨が降り始め、高速道路では土砂降りの雷雨となりました。観察会が終わるのを待っていたかのような夕

イミングでした。観察会当日は、2日前に焼岳山頂付近での地衣類調査をしたため、筋肉痛が残っていたことが少し不安でしたが、素晴らしい天気があることを忘れさせてくれました。

霧晴れて 色あざやかな 地衣のみち

第10回観察会（長野県伊那市・富士見町）で観察された地衣類リスト

Lichens observed during the 10th JSL Field Meeting at Ina-shi and Fujimi-cho, Nagano-ken, central Japan/
by Harada H., Sakata A., Kosugi M., Anzai T. & Kinoshita Y.

原田 浩¹⁾・坂田 歩美²⁾・小杉 真真子³⁾・安齊 唯夫⁴⁾・木下 靖浩²⁾：

1) 千葉県立中央博物館, 2) 共同研究員, 3) 国立極地研究所, 4) ゼルグブランニング

(注：下記のリストは現地での簡易同定に基づくものであり、標本に基づいたリストではありません)

1. 富士見町富士見公園 (Fujimi-cho, Fujimi Park, 965 m elev., 10 Sept. 2011)

Agonimiella pacifica マコゴケ
Anaptychia isidiza トゲヒメゲシゴケ
Anaptychia palmulata ヒメゲシゴケ
Buellia sp. スミイボゴケ属
Calicium sp. ピンゴケ属
Canoparmelia texana or *C. aptata*
 タカカウメノキゴケあるいはシラチャウメノキゴケ
Cetrelia braunsiana トゲトコブシゴケ
Coenogonium luteum ダイダイサラゴケ
Flavoparmelia caperata キウメノキゴケ
Flavopunctelia soledica ヒメキウメノキゴケ
Graphis handelii ニセモジゴケ
Heterodermia japonica クロアシゲシゴケ
Ionaspis lacustris イワアハタゴケ
Lecanora sibirica モエギイボゴケ
Lecanora sp. チャシブゴケ属
Melanelia huei オリーブゴケモドキ
Menegazzia terebrata センシゴケ
Myelochroa aurulenta コナウチキウメノキゴケ
Myelochroa irrugans ウチキウメノキゴケ
Normandina pulchella ノルマンゴケ
Ochrolechia trochophora クサヒラゴケ
Parmelinopsis minarum トゲウメノキゴケ
Parmotrema chinense ヤママツゴケ
Parmotrema tinctorum ウメノキゴケ
Porpidia albocaerulescens var. *albocaerulescens*
 ヘリトリゴケ
Punctelia borrieri ハクテンゴケ
Punctelia rudecta トゲハクテンゴケ

Rimelia clavulifera マツゲゴケ
Rimelia hawaiiensis クズレマツゲゴケ
Sarcographa tricola ホシダイゴケ
Schismatomma ocellulatum メダイゴケ

2. 伊那市入笠山 (Ina-shi, Mt. Nyugasa, 1740 - 1830 m elev., 10-11 Sept. 2011)

Alectoria lata ホネキノリ
Bryocaulon pseudosatoanum or *B. satoanum*
 クリイロシダレキノリあるいはニセシダレキノリ
Bryoria bicolor オニヒゲ
Bryoria furcellata コフキイバラキノリ
Bryoria lactinea フジキノリ
Bryoria nadvomikiana コフキハリガネキノリ
Bryoria smithii コフキオニヒゲ [オオオニヒゲ
B. confusa の国内からの報告の多くは疑わしく、本種の誤認の可能性がある。原田他が投稿中の日本産本属の論文のなかで、本種は日本新産として報告されている]
Bryoria trichodes ハリガネキノリ
Calicium sp. ピンゴケ属
Candelariella vitellina ロウソクゴケモドキ
Cetrelia braunsiana トゲトコブシゴケ
Cetrelia monachorum コフキトコブシゴケモドキ
Cladonia cornuta subsp. *cornuta* コフキツノハナゴケ
Cladonia cornuta subsp. *groenlandica* コフキウグイスゴケ
Cladonia furcata マタゴケ
Cladonia gracilis subsp. *turbinata* ウグイスゴケ
Cladonia macilenta コアカミゴケ
Cladonia parasitica ピロードハナゴケ
Cladonia pleurota アカミゴケ
Cladonia rangiferina ハナゴケ
Cladonia scabriuscula ササクレマタゴケ
Coccocarpia palmiticola コナカワラゴケ
Dermatocarpon miniatum カワイワタケ

<i>Endocarpon</i> sp.	ミドリゴケ属	<i>Peltigera degenii</i>	ウスツメゴケ
<i>Evernia esorediosa</i>	ヤマヒコノリ	<i>Peltigera horizontalis</i>	ヒラミツメゴケ
<i>Hypogymnia hypotrypella</i>	リボンゴケ	<i>Peltigera neopolydactyla</i>	ナガネツメゴケ
<i>Hypogymnia nikkoensis</i>	ニッコウフクロゴケ	<i>Peltigera leucophlebia</i>	ヒロハツメゴケモドキ
<i>Hypogymnia physodes</i>	フクロゴケ	<i>Peltigera rufescens</i>	アカツメゴケ
<i>Hypogymnia pseudophysodes</i>	フクロゴケモドキ	<i>Pertusaria multipuncta</i>	オオカノコゴケ
<i>Hypogymnia vittata</i>	ヒメリボンゴケ	<i>Pertusaria variolina</i>	トリハダゴケ属
<i>Hypotrachyna sinuosa</i>	ニュウガサウメノキゴケ	<i>Pilophorus clavatus</i>	カムリゴケ
<i>Imshaugia aleurites</i>	ゴヘイゴケ	<i>Pilophorus cereolus</i>	コナカムリゴケ [日本新産, 新称和名, 論文準備中]
<i>Leioderma solediatum</i>	コフキニセハナヒラゴケ	<i>Placopsis cribellans</i>	デイジーゴケ [下山途中 (富士見町入笠山), 1560 m elev.]
<i>Leptogium saturninum</i>	ツバカワキノリ	<i>Platismatia interrupta</i>	ウスバトコブシゴケ
<i>Leptogium</i> sp.	アオキノリ属 [流水中の岩上に生育しており現地ではイワノリ属と思われたが, その後, アオキノリ属と確認された]	<i>Pseudocyphellaria crocata</i>	ニセキンブチゴケ
<i>Lobaria linita</i>	ウスノカブトゴケ	<i>Psilolechia lucida</i>	コナゴケ
<i>Loxospora ochrophaea</i>	チャザクゴケ	<i>Ramalina almquistii</i>	タカネカラタチゴケ
<i>Melanelia olivacea</i>	オリーフゴケ	<i>Ramalina conduplicans</i>	カラタチゴケ
<i>Melanelia stygia</i>	タカネゴケ	<i>Ramalina exilis</i>	ホソカラタチゴケ
<i>Menegazzia terebrata</i>	センシゴケ	<i>Ramalina geniculata</i>	ツツシカラタチゴケ
<i>Mycoblastus sanguinarius</i>	クロアカゴケモドキ	<i>Rhizocarpon</i> sp.	チズゴケ属 [日本でチズゴケ <i>R. geographicum</i> と呼ばれてきたものの中には多数の種が含まれており, 検討が必要である。]
<i>Myelochroa irrugans</i>	ウチキウメノキゴケ	<i>Rinodina</i> sp.	ヒスケットゴケ属
<i>Myelochroa metarevoluta</i>	コフキチヨロギウメノキゴケ	<i>Sphaerophorus meiophorus</i>	サンゴゴケ
<i>Nephroma helveticum</i>	ウラムミゴケモドキ	<i>Sticta fuliginosa</i>	コウヤクゴケ
<i>Nephroma parile</i>	ヘリトリウラムミゴケ	<i>Tuckermannopsis americana</i>	ヒゲアワヒゴケ
<i>Nephroma resupinatum</i>	ケウラムミゴケ	<i>Tuckermannopsis gilva</i>	オーアケシゴケモドキ
<i>Nephromopsis ornata</i>	ウチキアワヒゴケ	<i>Tuckneraria laureri</i>	コナハリウスカワゴケ
<i>Ochrolechia</i> sp.	ニクイボゴケ属	<i>Tuchneraria pseudocomplicata</i>	ウスカワゴケ
<i>Oropogon asiaticus</i>	ミヤマクグラ	<i>Umbilicaria esculenta</i>	イワタケ
<i>Parmelia laevior</i>	テリハゴケ	<i>Umbilicaria kisovana</i>	ヒメイワタケ
<i>Parmelia pseudolaevior</i>	チヂレテリハゴケ	<i>Usnea diffracta</i>	ヨコワサルオガセ
<i>Parmelia shinanoana</i>	シナノウメノキゴケ	<i>Usnea longissima</i>	ナガサルオガセ
<i>Parmelia squarrosa</i>	カラクサゴケ	<i>Xanthoparmelia</i> sp.	キクハゴケ属
<i>Peltigera aphthosa</i>	ヒロハツメゴケ		
<i>Peltigera canina</i>	イヌツメゴケ		

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は, 許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに,

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 112, pp. 409-412: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the *Japanese Society for Lichenology*, 15 Dec. 2011.

日本地衣学会ニュースレター 111号

発行日: 2011年 12月 15日

編集: 原田 浩・木下 薫

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2011 日本地衣学会 (© 2011 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。